

◇ 3月の天文暦 ◇

日 時	記 事
4 11	上 弦
6 15	啓蟄 (太陽黄経 345°)
7 4	水星 外合
12 12	望
13	月 最遠
20 12	下 弦
21 16	春分 (太陽黄経 0°)
23 23	木星 留
26 18	月 最近
27 4	朔



(撮影 成相恭二)

R. H. ディック

この人の名前をきいて天文学者の反応はさまざまである。

最近では、宇宙開びゃくの時に放出された輻射が天空のバックグラウンド電波になっているという考えを提出して、いわゆる 3°K バックグラウンド電波の発見を導いた。

これは、独自の重力理論とむすびついた宇宙論の研究の一環であるとのことで宇宙論を専門とする天文学者たちには、「ああ、あのディッケか」とすぐにピンと来る名前である。

この「独自の重力理論」というのは、当然のことながら、天体の運動にも関係があり、惑星運動の精確なところになると影響が観測にかかるくらいになるので、水星の近日点の移動（一般相対論の証明の一つになっていることで有名）についての新しい説を出し、惑星運動の研究家たちからは「ああ、あのディッケか」とすぐにピンと来る名前である。

ところがこの水星の運動も、太陽が球形から多少でもずれているとわずかながら影響をうけるというので（太

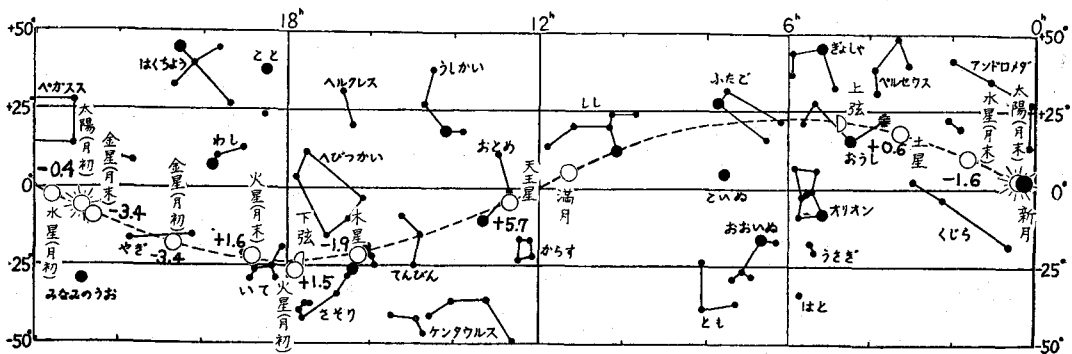
陽は実際多少扁平になっていることは周知の事実）、その扁平度をものすごく精確にはかろうとおもしろい望遠鏡を作って観測したので、太陽観測をしている人たちには「ああ、あのディッケか」とすぐにピンと来る名前である。

かくいう私は天体からの弱い弱い電波を観測して糊口をしのいでいるが、弱い弱い電波を受けるためには「ディッケ方式」というやり方をしなければいけないものの本に書いてある。電波技術上でも非常に重要なシステムであり、世界中の電波天文の受信機のほとんどはこの方式になっている。この方面でも、まことに「後世にその名ののこる仕事」をしている人である。

この人、本来は（日本でよくやるように人間を専門分野と地位の上下で定義しようとするならば）物理学者で、プリンストン大学の教授である。この広い研究分野も、「物理学」として一つのものなのであろう。事実、広い分野に関心をもつ天文学者ほど、ディッケがずい分珍しいことをしていると聞かされても驚かないようである。

(森本雅樹)

◇ 3月の日月惑星運行図 ◇



← 明方の空 → ← 夕方の空 →